

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/1階、2階ユニット)

事業所番号	2792200111		
法人名	株式会社 カームネスライフ		
事業所名	グループホームここから中川西		
所在地	大阪市生野区中川西1-14-7		
自己評価作成日	令和5年9月15日	評価結果市町村受理日	令和5年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様が「楽しく」生活が送れるようサポートしています。 コロナ禍ではありますが、毎日の散歩を実施し、活動的な日常を送って頂けるようサポートしています。 できる事の継続を意識、無理強いすることなく、また過介護になり過ぎないように、「その人らしく」を常に意識しサポートしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人(株)カームネスライフが事業主体であり京阪神を中心にグループホーム・小規模多機能施設を併設など23施設を運営している。当事業所は平成23年に開設13年目を迎える。周囲は住宅街に立地し長年住まわれている住民の方が多くよく声掛けがあり、和やかに世間話ができている。閉鎖的にならないように隣家と常に挨拶を交わし事業所の方針として季節感を味わっていただく為に感染状況、気候を観ながら、外出・散歩に重点を置いている。コロナ禍では室内レクリエーションで楽しみと生活リハビリを行っている。行事・イベントで菖蒲園に行き、長居公園などのコスモス観覧の外出を予定している。食事や運動会など準備から利用者と一緒にできることはして頂きなんでも参加型の支援を行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時に唱和して共有している。	申し送りの後に職員と利用者が理念を唱和している。理念「家庭的な雰囲気・穏やかな生活・いつも笑顔で」を玄関・事務所・フロアに掲示して職員間で共有ができています。新入職者にはスタッフが一緒に業務の中で現任指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域交流は少ないのが現状。夏祭り(だんじり)等で交流させて頂いている。	地域のだんじりが事業所の近辺の駐車場まで来てくれて観に行っている。自治会に入会し会長から電話など情報を得ている。回覧板や広報誌もあり、学校行事や7月の夏祭りなどで交流できている。近所の方が認知症のことを尋ねられる機会があり、当事者としての話をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の鍵預かり事業に協力している。また日々の散歩を通じ、地域に参画することで地域の方へは認知症の理解を進めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で書面開催となっている。運営状況を報告し、意見や要望で募っている。意見、要望等は、朝礼、申し送り等でスタッフ間で共有し、実践している。	運営推進会議はコロナ禍で9月まで書面開催していたが、11月末より対面行う開催案内を出し、現在返信待ちの状況である。議事録は会議メンバーに送り、利用者にはお便りと運営状況報告書と一緒に写真を同封してコメント付きで郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者がおられる為、区役所に行く機会、電話でのやりとりもあり関りは多く、連携を図っている。	生活支援課に電話と月に1~2回は訪問して報告し、生活保護8人の担当者より年1回訪問がある。病院受診が必要時医療券の申請に支援課に行っている。介護保険課・高齢福祉課(後期高齢者保険証更新時) 2か月毎にグループホーム・小規模多機能看護デいの勉強会は感染対策の下で対面での勉強会は続行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束、虐待防止」については、年4回研修の機会を設けている。 また、身体拘束をしないケアも実践している。 玄関は防犯の為、テンキーとなっており、各フロアの行き来は自由である。	身体拘束適正化の委員会を館長・管理者・ケアマネージャーの委員と当日の勤務者で会議と勉強会を併せて資料等を用いて行っている。会議議事録は職員全員が閲覧し身体拘束をしないケアの周知徹底を図っている。3ヶ月毎に会議と、研修(年間研修計画で年4回)を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束、虐待防止」については、年4回研修の機会を設けている。 また、虐待をしないケアも実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を活用されている入居者様がおられる為、必然的に学ぶ機会になっている。 内部研修により情報を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を実施し納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、電話、運営推進会議等で要望を把握できる機会がある。 抽出された要望等は、随時朝礼時や申し送り等で共有し運営に反映している。	コロナ渦時には電話やメールで利用者の報告を行い面会時に意見・要望を聴いている。散歩や外出をさせてほしい。夏場でもひざ掛けは必ずさせてほしいなど、家族の意見を検討して安らぐ環境場所づくりを目指し、事業所玄関先に6ヶ月前から椅子を置いている。外気浴ができ、風景を観て気分転換出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時や朝礼時等で把握する機会を設けている。 また、年2回スタッフ個人面談を実施している為、その場でも把握している。	自己評価を用いて年2回面談を行い意見を聴く機会を設けている。内部研修を定期的に設け、職員会議も毎月行い、日頃から意見交換ができています。多動で不眠の利用者がベッドで眠れず、ソファや床にマットの上に布団を敷いて寝るなど職員意見で臨機応変に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回のスタッフ個人面談時に目標設定をしてもらい、向上心を持って頂き目標に向けて実践できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修は中止となっている。 毎月の職員会議時に内部研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会や研修に参加している。 法人研修で勉強会や交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を実施しており、契約時等に要望は確認している。 またサービス(入居)が開始されてからも要望等があれば確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を実施しており、契約時等に要望は確認している。 またサービス(入居)が開始されてからも要望等があれば確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様に要望を確認している。 必要なサービスも本人様、家族様と相談しながら取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物(たたみ、干し)、掃除等、入居者様・スタッフと一緒にできることは実施している。 食事イベント、おやつ作りは一緒に行い、ノンアルで乾杯したり、関係作り設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の意見、要望を汲み取り、本人様本位のケアをできるよう関係作りを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で馴染みの人との面会や馴染みの場所に行くこともできていない。	電話の取次など希望があれば行すが、コロナ禍で馴染みの関係は希薄である。馴染みの場所にも出かけていない。面会の要望には感染予防対策を行ない玄関口で面会は行ってきたが、5類移行からは感染予防対策を行い、居室での面会も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	玄関先、リビングとくつろげる空間を作り、関わり合いができています。 イベント時は交流の機会となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もメール等を使用し、関係性を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様との会話で意向の把握に努めている。ご本人が気持ちを伝えられない場合は、ご家族に代弁頂いたり、また日頃の行動や言動から汲み取るようにしている。	日頃のケアの中で会話やイベント時などに表情の変化を逃さず察したり、希望や要望を聞いている。困難な場合は「どちらがいいですか？」など提示して選択してもらう。時には家族から生活歴など聞いて参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族やケアマネなどから、これまでの生活歴を伺うようにしている。 入居者様の会話の中から情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン作成時にスタッフと意見交換を行い現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族様、関係者(医師、看護師、栄養士、訪問マッサージ師、訪問歯科)の意見を聞き、スタッフと会議等で意見を交えて作成している。	介護計画の短期目標3ヶ月・長期目標6ヶ月とし、毎月モニタリングを行っている。状況・状態の変化時は担当医師の意見を基に関係者と介護計画サービス担当者会議を開催し、家族には電話及び訪問時に意向・要望を確認している。介護計画書は家族に書面で確認し了承のもとで交付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録に残している。その記録を基にケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定したサービスを提供するのではなく、本人、ご家族が必要があり希望されるサービスを提案している。 (個人によって訪問歯科、訪問リハ等のサービスを選択されている)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩を兼ね、近隣のスーパーに買い物に行く等、一人一人の楽しみを維持できるように努力している。(コロナ禍で機会は少なくなっている。)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人・ご家族の希望に添った医療機関を利用している。必要な際には外来受診も行っている。	かかりつけ医は入居時に利用者・家族と話し合い決め、多数は協力医としている。精神科など以前からのかかりつけ医の人は2名で、それぞれ2回の訪問診療を受けている。歯科は希望者のみ毎週歯科衛生士同行で訪問診療を受け、診療状況は変化時のみ電話で、又は2か月毎の運営状況報告で知らせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があった場合は、直ぐに看護師と連携を図り、適切な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は面会やカンファレンスを行っている。 地域連携を連携を図り、早期退院に向けた相談等は行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化」「看取り」の指針は、説明している。 実際に看取りに入る際も本人、家族様、医師、看護師、スタッフと話し合いを行っている。	入居時に重度化や終末期の事業所の対応を指針を用い説明している。利用者の状態が変化した場合には医師・家族と対応を話し合い、訪問看護師・職員と連携して看取りの支援に取り組んでおり、今までに多数の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救急救命講習を受講している職員もいる。 また定期的な内部研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災、地震を想定した訓練を実施している。 地域との協力体制は希薄である。	マニュアル・連絡網を整備し年2回4月(夜間)訓練実施10月・11月(消防保安協会立ち合い)の避難訓練を予定している。非常物品として水・缶詰・乾電池等を用意している。災害時には近隣在住職員に参集の確約をしている。BCPの作成は出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様には敬語(丁寧語)を基本としている。 またケア時(排泄、入浴等)も必ず声かけも実施している。接遇の内部研修も実施している。	人権・プライバシー・接遇の研修を実施し、自分がされて嫌なことはしないとしている。利用者に話しかける時は耳元で、排泄誘導時の大声・入浴時・入室時の声掛け確認をして、人格を損なわない対応をしている。不適切な場合は都度注意し、ノートに記載して皆に伝え不適切ケアのないよう気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自身で訴えられる方は希望を確認している。 訴えが難しい方には、リターンできるような声掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて生活を送って頂いている。 職員ペースの声掛けではなく、入居のペース(1人1人)になるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整髪、顔拭きの実施。 適宜、着替えを実施したり、入居者様と服を選んだりして頂いている。 ネイルの際も色を選んで頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(盛り付け、イベント時の調理)、片づけ(下膳)など一緒に行っている。	食材業者の材料で調理担当職員(見守り兼任)が昼食・夕食を用意し、朝食は夜勤者が作り提供している。利用者の提案でおでん作り腕を振るってくれたり、職員と買い物に出かけ天ぷら・チジミ等一緒に作ったり、庭でバーベキューをして晩酌を楽しんでいる人もいる。今後は外食支援もしたいとしている。	調理担当職員による食事が提供されていますが、職員も検食代わりに同じ物を食して、感想や意見をのべる機会を持たれることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様のADLに合わせ、お粥、刻み食、ミキサー食等、食事が摂取し易い様に工夫している。 水分量も1日1,000cc以上を目標にトロミをつける等、水分量が確保できるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。 入居者様によっては、訪問歯科を利用されている方もおられる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意の確認を行い、トイレでの排泄の支援を実施。	声掛けや誘導・見守りによるトイレでの排泄の支援をしている。夜間は自尿・安全・安眠を優先してパット交換・トイレ誘導と利用者にあった排泄の支援をしている。ポータブルトイレを利用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や体操、毎日散歩で便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴で入浴日は決まっているが、状況に応じて変更したりしている。	入浴は週3回午前中としているが希望により午後から入浴する人もいる。拒否する人には日を変えたり人を代え、シャワー浴等柔軟に対応して清潔保持の支援をしている。夏場はシャワーにしており、好みのシャンプー・石鹸を使っている人もいる。職員と1対1の会話を楽しみ季節のゆず湯の日もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて休息(臥床)して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理は薬剤師が行い、薬剤師より副作用の注意点等を指導してもらっている。薬剤リストにて個々に管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や気分転換に買い物の実施。麻雀やお酒を楽しまれる方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩、スーパーへの買い物、毎月の外食等を行っている。菖蒲園にも行っている。	近所や川沿いを散歩したり、コリアタウンにキムチを買いに行っている。ドライブに出かけ利用者(配送の仕事)の案内で回り道をして楽しんでいる。城北公園の菖蒲を見に行ったりバラ園に出かけ、コスモス園など外出の計画を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族、成年後見人が行っている。入居者様によっては少額の金銭を管理されている方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を持っている方もおり、時折、連絡は取っている。 固定電話での対応もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、適宜清掃を行い、不快にならないように清潔を保っている。 またリビングには行事の季節感を味わえるように壁画などを飾っている。	敷地の庭に植木が植えられバーベキューや隣の家の桜見物できるスペースがある。玄関入り口に手洗いが設けられ清潔の配慮があり、明るい色調のフローリング・壁にうさぎ(干支)のカレンダーリビングにはハロインのポスターを貼り季節感がある。利用者は椅子やソファに座り、清掃した空間でそれぞれが寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席などは固定していない為、気の合う方と近くに座ることができる。 玄関先にも椅子を設置、自由に過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたもの(タンス、テレビ、仏壇、写真)を使用されたり、馴染みの物を持ち込んで頂いている。	居室にはクローゼットが用意されていて利用者はテレビ・テーブル・仏壇・スタンドランプ等好きな物を持ち込み、ひ孫や家族写真を貼り、誕生日に職員から送られた色紙を大事に置いてその人らしい部屋作りをしている。清掃は職員と一緒にするなど出来る事をして整理整頓している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、自身の部屋と判るように手作りの表札をかけている。 またトイレも識別できるようプレートをかけている。		